

藤田

ふじた・まさひろ

正広

さん



▲練習風景



▲千歳機甲太鼓協賛会
創設・千歳機甲太鼓創部
30周年祝賀会での演奏
(11月18日)

プロフィール

■藤田 正広(ふじた まさひろ)さん/文京在住/陸上自衛官/昭和63年から千歳機甲太鼓の活動に参加し、平成14年からリーダーを務める。後輩の指導を行いながら、千歳音楽まつりのほか、市内外のイベントで演奏を披露するなど、精力的な活動を続けている。

勇壮で力強い和太鼓の演奏。迫力のある振動は、私たちの心と身体に響きます。勇ましい演奏で市民から親しまれている「千歳機甲太鼓」は、今年で発足から30周年を迎えました。

機甲太鼓は、陸上自衛隊第7師団第11普通科連隊に所属する自衛官の皆さんが主体となって活動しています。今回は、厳しい訓練の間を縫って練習に励む、機甲太鼓のリーダー・藤田さんにお話を聞きました。

●いつから和太鼓を始めましたか

「機甲太鼓の部員に入隊前からの経験者は、ほとんどいません。自分は、機甲太鼓が発足した年(昭和62年)の翌年から活動に参加したので、和太鼓歴は29年になります。最初は、右も左もわからないままの参加でした。それでも、中隊長からの声かけで始めたものだから、『できない』

とは言えませんが(笑)。

先輩の見よう見まねで叩いているうちに、自分は和太鼓が好きだな、向いているなと思うようになりまし。和太鼓は、ただ叩くだけではなく、『演舞』の要素も大切です。その《ピシッとやる》感じが自分の性格に合っていましたね。人前に立つことは、苦手だと思っていたのですが、和太鼓は話したり歌ったりしなくてもいいですから(笑)。」

●忘れられない演奏はありますか

「やはり、日本武道館の大観衆の前で演奏した『自衛隊音楽まつり』でしょうか。機甲太鼓は、過去に7回参加していますが、毎回、会場の雰囲気には圧倒されます。観客の皆さんが、プラネタリウムの星のように輝いていて、演奏が終わると、拍手がドカンと鳴る。和太鼓の音以上に腹に響くような大音量です。機甲

千歳機甲太鼓 30周年を迎えて 「地域の皆さんとの交流に 支えられました」



太鼓をやっていないければ、いち自衛官の自分が絶対に経験することのなかった世界ですね。

また、毎年『文笏湖水清まつり』での演奏ですが、とにかくあの寒さは、身体が忘れません(笑)。一度だけ、戦闘服で演奏したことがあるのですが、何となくお客さんが期待外れな顔をしているような気がして…(苦笑)。それ以来は、腕をしっかりと出した衣装で出演しています。」

●機甲太鼓の活動のやりがいと今後の目標について教えてください

「演奏を聞いてくれた方が、終わった後に『よかったよ』と声をかけてくれると、たまらなくうれいのです。本当にやってよかったと思えます。自分がこれまで、活動にやりがいを実感し、長く続けることができたのは、地域の皆

さんとの交流に支えられたからだと思います。『千歳音楽まつり』をはじめ、市内のほかの和太鼓チームと合同演奏する機会などにも恵まれ、和太鼓を通じた交流の輪が広がったこともうれしいですね。

今後も地域に根ざした活動を続け、機甲太鼓の伝統を次世代へ着実につなげていくために、まずはしっかりと後進の育成に努めたいです。また、これまでにない新しい取り組みにも挑戦したいですね。『一緒にやりましょう』という声をお待ちしています。」

練習時の鬼気迫る表情とは打って変わり、終始笑顔で取材に応じられた藤田さん。温和な口調の中でも「和太鼓あっての自分です」と言い切ってしまう、その熱意ある姿に、千歳機甲太鼓の歴史の重みを感じました。